

BS1スペシャル

26歳の乳がんダイアリー 矢方美紀

放送日：2019年5月2日 放送時間：45分



対象校種 小学校高学年 中学校 高校

対象教科 道徳 学級活動

この番組の良さ



● 病と共に生きる 一人の女性の等身大の記録

今や日本人女性の11人に1人が経験すると言われる乳がん。元SKE48の矢方美紀さんも乳がん患者の一人です。2018年に乳がんが見つかり、左胸全摘の手術を受けました。

そんな矢方さんですが、病気を隠さず公表して私らしくなりたいと考え、Web上で『乳がんダイアリー 矢方美紀』と題した治療の日々を撮影した映像日記の配信を始めました。



● 治療と仕事の両立

矢方さんは抗がん剤によるけん怠感や脱毛といった副作用のことに加え、日々の仕事、食事のことなど様々な内容の自撮り映像をネット上に公開しました。その数は2年間で180本にも及びます。

患者目線での記録からは、アピランスサポート(外見の変化によるつらさへのケア)の大切さや、治療を続けながら、小さい頃からの夢だった声優業への道を歩み始めたことなど、治療と仕事の両立を目指した発信がされています。しかしその気持ちとは裏腹に、両立することの難しさがたくさん浮かび上がってきます。



執筆者

海陽町立海部小学校

指導教諭 溝内正剛

番組活用のポイント

● 生きるということ

矢方さんは等身大の自分を自撮りすることによって、生きるということの意味を視聴する人に押し付けることなく素直に伝えていきます。

矢方さんは、がんになったことで、自分自身が変わるきっかけとなり、生きるということに真剣に向き合い、考えることができるようになったと言います。病気になって失ったものもありますが、それを悲しむよりも毎日を充実して過ごすことを大切にしたい、そしてこれからも、夢と自分の病気に向き合って生きていきます。と決意を話します。この番組を視聴することで、いつ自分や自分の大切な人の身に降りかかってもおかしくないがんという病気について、真剣に考えるきっかけとなることでしょう。

そして、前向きに自分らしく、がんと共に歩む一人の女性のドキュメンタリーを通して、生きるということについて考え直すきっかけとなり、苦難を乗り越えていこうとする心が芽生えることでしょう。

● ひとりで抱え込まなくてよい

がんになった当初は、矢方さんも自分のことで精一杯だったと言います。映像日記から、当時の治療のつらさや将来への不安など、20代半ばで直面した、厳しい現実に向き合えばよいのかといった思い悩む様子を読み取ることができます。

そんな矢方さんですが、治療を通して大きな支えになったのは、家族の存在でありアピランスサポートの存在でした。病気になったことで、医療の現場の人達の気持ちを考えられるようになったと言います。そして、たくさんの人と関わることにより、悩みはひとりで抱え込まなくて良いということを教えられました。

そんな矢方さんを取り巻く周りの人の存在から、病気の人や悩んでいる人、困っている人にどう関われば良いのか、どう支えたら良いのかといったことを自然と学ぶことができるでしょう。そして、お互い助け合い支えあっていることによる良い関係に気づき、より良い人間関係を築いていこうとする心が芽生えることでしょう。

本番組は、道徳の学習における「希望と勇気、努力と強い意志」「親切、思いやり」「よりよく生きる喜び」といった内容項目の学習に生かされます。